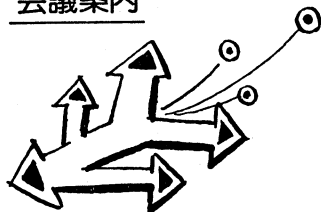


## 会議案内



各会議末のコードは整理番号です（※印は既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手70円を同封のうえ、請求ください。

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

## 国際会議

### 5th Int'l. Conf. on Distributed Computing Systems (068)

1. May 13-17, 1985
2. Denver, Colorado, USA
3. (主催) IEEE Computer Society  
(連絡先) Harry Hayman, IEEE Computer Society, 1109 Spring Street, Suite 300, Silver Spring, MD 20910, USA

### 1st Congress of the Int'l. Fuzzy Systems Association (069)

1. July 1-6, 1985
2. マジヨルカ島, スペイン
3. (主催) 国際ファジィシステム学会 (IFSA)  
(国内連絡先) 東工大・大学院総合理工学研究所 菅野道夫
4. 論文締切: January 1, 1985  
A 4判用紙にシングル・スペースで2ページ以内のabstract。3語以内のキーワードを付加。

### 9th Int'l. Joint Conf. on Artificial Intelligence (070)

1. August 18-19, 1985 Tutorials  
August 20-24, 1985 Technical Sessions
2. Univ. of California, Los Angeles, USA
3. (論文投稿先) Prof. Aravind Joshi, Dept. of Computer & Information Science, Univ. of Pennsylvania, Philadelphia, PA 19014, USA  
(国内問合せ先) 京都大学工学部電気工学第2教室 松山隆司 Tel. 075(751)2111(内 5346)
4. 論文締切: January 7, 1985. 採択通知: March 16. 最終原稿締切: April 16. Long Paper: 5500 words maximum up to 7 proceedings pages. Short paper: 2200 words maximum, up to 3 proceedings pages. (各論文とも5個以下のキーワード, 100~200語のabstractを含む)。

### Int'l. Seminar on Computer Networking and Performance Evaluation (071)

1. 1985年9月18日(水)~20日(金)

2. 東京 (詳細は未定)
3. 京都大学工学部数理工学教室 高橋 豊  
Tel. 075(751)2111(内 5513, 5503)
4. 論文締切: 1985年2月15日  
A 4判ダブル・スペースで20ページ以内, コピ5部

## 国内会議

### 電子通信学会東京支部講演会

1. 昭和59年11月2日(金) 14:00~17:00
2. 東京大学医学部好仁会301号室
3. (社)電子通信学会東京支部 Tel. 03(433)6691
4. (演題)
  - A New Tide in the Understanding of Speech and Language
  - Sentence Parsing and Theory of Syntax
  - Quantitative Reasoning
  - Reflective Computational Architecture

### 日本OR学会第12回シンポジウム——信頼性とOR

1. 昭和59年11月2日(金) 10:00~17:00
2. 法政大学工学部 (東京都小金井市梶野町)
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会  
Tel. 03(815)3351
4. 参加費 3,000円

### 日本OR学会 秋季研究発表会——会話型のOR

1. 昭和59年11月3日(土)~4日(日)
2. 法政大学工学部 (東京都小金井市梶野町)
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会
4. 参加費 5,000円, 3日に懇親会があります。

### 第5回ORセミナー「情報量統計学」——AICによる統計学の再構成

1. 昭和59年11月15日(木)~16日(金) 10:00~16:30
2. 日本アイ・ビー・エム(株)サイエンス・インスティテュートセミナールーム (東京都千代田区三番町)
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会
4. 参加費 30,000円(学生 15,000円) テキスト代, 昼食代を含む。申込締切 10月31日(水)

### 日本工学会記念講演会——わが国工学の将来と使命

1. 昭和59年11月16日(金) 13:00~16:30
2. 工学院大学講堂 (東京都新宿区西新宿)
3. (社)日本工学会 Tel. 03(475)4621
4. 入場無料 (演題)
  - わが国における土木構造物の耐震対策
  - 建築における工学—特に耐震について
  - 地震予知の現状と将来

### 初心者のためのロボット講習会——マニピュレータ制御講座

1. 昭和59年11月20日(火) 10:00~18:00
2. 機械振興会館研修2号室 (東京都港区芝公園)
3. 日本ロボット学会 Tel. 03(434)2061
4. 参加費 8,000円 (学生 1,000円)

### 第2回新しいネットワーク技術会議

1. 昭和59年11月26日(月)~30日(金)
2. 新丸ビル大会議室 (東京・丸の内)
3. (社)日本能率協会 Tel. 03(434)6211

4. テーマとコーディネータ
- ・動向と展望 齊藤忠夫 (東 大)
  - ・基盤技術 坂田真人 (東北大)
  - ・構築・運用の技術 田場 実 (東洋情報システム)
  - ・新しい技術のビジネス分野への応用 塚本和孝 (日 立)
  - ・新しい技術のパブリック分野への応用 門井 晶 (小田急電鉄)

**エンジニアリングシンポジウム 84——エンジニアリングその課題と未来**

1. 昭和59年11月29日(木)~30日(金)
2. 東京商工会議所ビル (千代田区丸の内)

3. (財)エンジニアリング振興協会 Tel.03(502)4441
4. 参加費 18,000円, 申込締切 10月19日

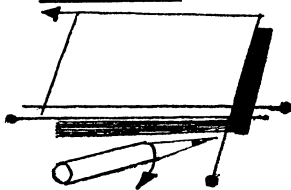
**日本OR学会第13回シンポジウム——地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム**

1. 昭和59年12月5日(水) 10:00~17:00
2. 東京大学工学部11号館講堂
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会
4. 参加費 2,000円 (学生 1,000円)

**第15回信頼性・保全性シンポジウム**

1. 昭和60年5月29日(水)~31日(金)
2. 農協ビル (東京・大手町)
3. (財)日本科学技術連盟 Tel.03(352)2231 (内 524)

**雑 報**



**○大学情報工学関係教官募集**

**電気通信大学短期大学部**

募集人員 電子情報学科情報処理コース 教授 1名  
 担当科目 情報システム工学その他  
 応募資格 博士の学位を有し、研究および教育に熱意のある方。年令 出来れば50才代。  
 任用予定 昭和60年4月1日  
 公募締切 昭和59年12月10日  
 提出書類 履歴書、業績目録(主な論文を添付のこと)推薦書  
 書類提出先 〒182 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1  
 電気通信大学短期大学部電子情報学科  
 教授推薦委員会委員長  
 中村 勲 Tel. 0424(83)2161 (内線 5152)

**電気通信大学短期大学部**

募集人員 電子情報学科情報処理コース  
 助教または講師 1名  
 担当科目 プログラミング演習および計算機ソフトウェア関係の科目  
 応募資格 博士の学位を有し、研究および教育に熱意のある方。年令 30才前後。

任用予定、公募締切、提出書類、書類提出先は上記教授募集の場合と同じ。

**静岡大学工業短期大学部**

募集人員 共通科 助教授または講師 1名  
 専門分野 情報工学  
 担当 一般情報教育に関する科目、他  
 講義内容  
 応募資格 (1) 博士の学位を有し、研究及び教育に熱意のある者。  
 (2) なるべく35歳以下の者。  
 (3) 浜松地区に定住できる者。  
 提出書類 履歴書、個人調書(研究歴、業績リスト、主な論文の別刷)  
 着任時期 昭和60年4月1日  
 公募締切 昭和60年1月5日 必着  
 申 込 先 〒432 浜松市城北 3-5-1  
 静岡大学工業短期大学部共通科教官選考委員会  
 委員長 土井孝一郎  
 Tel. 0534(71)1175 (内線 470)

**○日本工学会 第47回見学会**

期 日 昭和59年11月30日(金)  
 見学機関 電電公社武蔵野通研, 三鷹電報電話局 (INS: 高度情報通信システム)  
 新宿西口 9:30 出発(バス)~16:30  
 新宿西口解散  
 参 加 費 2,500円 (往復バス代ならびに昼食代)  
 定員 50名  
 申込方法 任意の用紙に氏名、勤務先(職名)、連絡先、所属学協会名を記入のうえ、参加費(定額為替)を添えて下記へ申し込む。領収書が必要な方はその旨付記のこと。  
 申 込 先 〒107 港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル  
 (社)日本工学会 Tel.03(475)4621

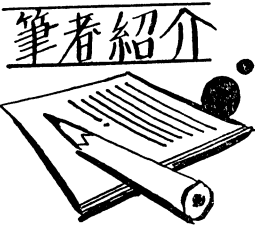
~~~~~  
日本学術会議だより  
~~~~~

日本学術会議会員選出制度の説明

- 日本学術会議会員は、次のように選出（推薦）されます。
- 1 会員の候補者を選定し、及び推薦人（会員の推薦に当たる者）を指名することを希望する学術研究団体は、日本学術会議に登録を申請します。  
申請する場合には、その学術研究団体の目的とする学術研究の領域と関連する研究連絡委員会を届け出なければなりません。届け出られた研究連絡委員会が「関連研究連絡委員会」です。  
関連研究連絡委員会により区分された学術研究の領域（以下「学術研究領域」という）ごとに、会員の候補者及び推薦人を届け出ることになります。
  - 2 日本学術会議会員推薦管理会は、この申請を審査し、その学術研究団体が所定の要件を満たすものであるときは、関連研究連絡委員会その他の事項を登録します。  
登録された学術研究団体が「登録学術研究団体」です。
  - 3 登録学術研究団体が届け出た関連研究連絡委員会が複数あるときは、日本学術会議会長は、関連研究連絡委員会を限定（指定）します。
  - 4 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、会員の候補者を「学術研究領域」ごとに選定し、日本学術会議に届け出ます。
  - 5 日本学術会議会員推薦管理会は、届け出られた会員の候補者が会員の資格を有する者であるかどうか認定します。
  - 6 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、推薦人を「学術研究領域」ごとに指名し、日本学術会議に届け出ます。
  - 7 推薦人は、「学術研究領域」ごとに、会員推薦管理会が会員となる資格を有すると認定した会員の候補者のうちから、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を選考・決定します。
  - 8 推薦人は、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を、日本学術会議を経由して、内閣総理大臣に推薦します。
  - 9 内閣総理大臣は、その推薦に基づいて、会員を任命します。

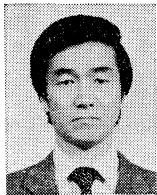
日本学術会議第 13 期会員推薦手続日程

昭 和 59 年	9月29日まで	学術研究団体の登録の申請の締切り
	11月上旬	登録審査結果の通知
	不登録通知を受けた日の翌日から起算して20日以内	不登録通知を受けた団体からの異議の申出受付
	11月	（関連研究連絡委員会についての意見聴取）
昭 和 60 年	12月下旬	異議の申出に対する決定
	1月中旬	（関連研究連絡委員会の指定〔最終確定〕）
	1月中旬	会員の候補者の選定及び推薦人の指名の依頼
	2月28日まで	会員の候補者の届出及び推薦人の届出の締切り
	3月30日まで	会員の候補者の資格の認定等の通知
	3月下旬	推薦人に会議開催等の通知発送
	不認定通知を受けた日から20日以内	会員の候補者の資格の不認定通知を受けた会員の候補者等の異議の申出受付
	4月30日まで	異議の申出に対する決定
年	5月中旬から6月上旬まで	推薦人の会議等（会員及び補欠の会員として推薦すべき者を決定）
	6月中旬	日本学術会議を経由して内閣総理大臣へ推薦
	7月19日	第13期日本学術会議会員の任命



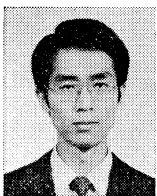
元岡 達 (正会員)

昭和4年生。昭和27年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和32年同大学院修了。同年東京大学工学部助教授となり、現在同学部教授。主として電子計算機の記憶装置、高速論理回路、論理設計の自動化などの研究に従事。最近は、新しい計算機の構成法・計算機システムの人工知能化、日本語処理技術などに興味をもっている。工学博士。本会元常務理事。電気学会、電子通信学会、IEEE各会員。



中村 行宏 (正会員)

昭和44年京都大学大学院数理工学修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。現在、横須賀電気通信研究所データ処理研究部知識ベース研究室研究専門調査役。この間、システム記述用言語SYSL、DIPS論理装置などの研究実用化を経て、現在、ハードウェア設計支援技術の研究に従事。電子通信学会会員。



小栗 清

昭和49年九州大学理学部物理学科卒業。昭和51年同大学大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。現在、横須賀電気通信研究所データ処理研究部知識ベース研究室研究専門調査員。この間、DIPSアーキテクチャ、論理装置などの研究、設計開発を経て、現在、ハードウェア設計支援技術の研究に従事。電子通信学会会員。



迫田 行介 (正会員)

昭和20年生。昭和43年東京工業大学理工学部制御工学科卒業。昭和45年同大学院理工学研究科制御工学専攻修士課程修了。同年(株)日立製作所中央研究所に入社。昭和51年同社システム開発研究所勤務。現在に至る。コンパイラ、プログラムテストシステム、会話型プログラミングシステム、マイクロプログラミングシステム、ファームウェア、制御用計算機のオペレーティングシステムなどの開発研究に従事。ACM、IEEE各会員。



石原孝一郎 (正会員)

昭和11年生。同34年東京大学工学部電気工学科卒業。同年日立製作所入社。大型計算機の研究開発に従事。現在同社システム開発研究所にて、計算機のシステム・ソフトウェア、知識工学基本ソフトウェアの研究管理に従事。電気学会会員。



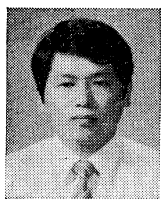
村上 道郎

昭和21年生。昭和44年慶応大学工学部電気工学科卒業。同年沖電気工業(株)入社。以来LSI・CADの研究開発に従事。現在、電子デバイス事業部LSI・CAD部勤務。



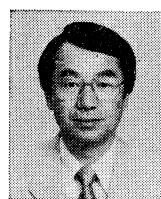
平川 和之 (正会員)

昭和15年生。昭和38年東京工業大学電気工学科卒業。同年沖電気工業(株)入社。電子交換機的设计業務を経て、CADの開発に従事。現在、電子デバイス事業部LSI・CAD部長。IEEE会員。



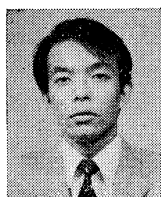
松下 浩明 (正会員)

昭和 27 年生。昭和 50 年九州工業大学工学部情報工学科卒業。昭和 55 年東北大学大学院博士課程情報工学専攻修了。工学博士。同年三菱電機(株)入社。以来、同社情報電子研究所にて LSI の CAD に関する研究開発に従事。電子通信学会会員。



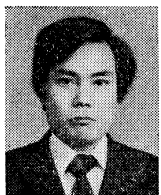
上田 和宏 (正会員)

昭和 17 年生。昭和 40 年広島大学工学部電気工学科卒業。同 42 年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入社。現在同社厚木電気通信研究所集積回路研究部集積応用研究室研究専門調査役。LSI の CAD システムの研究・開発に従事。電子通信学会会員。



丸山 文宏 (正会員)

1955 年生。1978 年東京大学工学部計数工学科卒業。同年(株)富士通研究所入社。1981 年～1982 年スタンフォード大学計算機科学科客員研究員。ハードウェア CAD, 人工知能の研究開発に従事。1980 年本学会創立 20 周年記念論文賞, 1982 年電子通信学会学術奨励賞各受賞。電子通信学会, 日本認知科学会各会員。



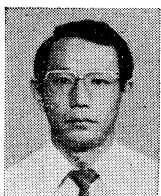
久保 登 (正会員)

昭和 23 年生。昭和 49 年群馬大学電子工学科卒業。昭和 54 年大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻後期課程修了。工学博士。同年シャープ(株)入社。技術本部にて、LSI の CAD システム開発, CAD に関連する流体解析等に従事。CAD/CAE システム, ソフトウェア工学, 知識工学に興味をもっている。電子通信学会, IEEE 各会員。



上原 貴夫 (正会員)

1942 年生。1965 年早稲田大学電気通信学科卒業。1970 年同大学大学院博士課程修了。工学博士。同年富士通研究所入社。現在、ソフトウェア研究部長代理兼第一研究室長。大阪大学基礎工学部非常勤講師。著書「VLSI コンピュータの CAD」(共著, 産業図書), IEEE, 電子通信学会各会員。IFIP WG 10.2 委員。



西岡 郁夫 (正会員)

昭和 18 年生。41 年大阪大学工学部通信工学科卒業。44 年同大学院修士課程修了。同年シャープ(株)入社。技術本部にてプリント基板, LSI, 三次元機構設計の CAD システムの開発に従事。工学博士。現在中央研究所ソフトウェア・リサーチセンター所長。電子通信学会会員。



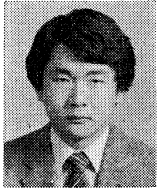
南谷 崇 (正会員)

昭和 21 年生。昭和 44 年東京大学工学部計数工学科卒業。昭和 46 年同大学院修士課程修了。同年日本電気(株)入社。中央研究所勤務。昭和 56 年東京工業大学工学部情報工学科助教授。現在に至る。主として論理設計方法論, 非同期システム論, 計算機の耐故障設計に関する研究に従事。工学博士。著書「PLA の使い方」, 「順序機械(共著)」, IEEE, 電子通信学会, 情報通信学会各会員。



大附 辰夫 (正会員)

昭和 15 年生。昭和 38 年早稲田大学理工学部電気通信学科卒業。昭和 40 年同大学院修士課程修了。同年日本電気(株)入社。昭和 55 年同社退社。現在、早稲田大学理工学部電子通信学科教授。工学博士。電子回路の CAD 及びこれに関連した基礎研究に従事。昭和 44 年度電子通信学会論文賞, 1974 年 IEEE Guillin-Cauer 賞各受賞。電子通信学会, 電気学会, IEEE Fellow。



田丸喜一郎 (正会員)

昭和28年生。昭和51年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。昭和56年同工学研究科博士課程修了。同年(株)東芝に入社。現在、同社半導体技術研究所において、CADシステムの開発に従事。工学博士。電子通信学会会員。



築添 明 (正会員)

昭和23年生。昭和47年京都大学工学部数理工学科卒業。昭和49年同大学工学研究科数理工学専攻修士課程修了。同年(株)日立製作所中央研究所入所。以来、自動配置配線、レイアウト設計検証、パターン論理演算などの半導体CADの研究に従事。現在、LA・DA室研究員。電子通信学会会員。



小澤 時典 (正会員)

昭和15年生。昭和40年東京工業大学理工学部電気工学課程卒業。同年(株)日立製作所中央研究所入所。以来、自動配置配線、レイアウト設計検証、パターン論理演算などの半導体CADの研究に従事。現在、LA・DA室長。電子通信学会、電気学会、IEEE各会員。



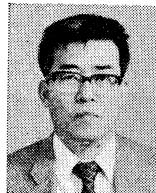
樹下 行三 (正会員)

昭和11年生。昭和34年大阪大学工学部通信工学科卒業。昭和39年同大学院博士課程修了。工学博士。同年同大学工学部助手。昭和41年助教授。昭和53年広島大学総合科学部教授。現在に至る。論理回路の故障診断論、検査容易設計論などの研究に従事。著書「デジタル回路の故障診断(上)」など。電子通信学会、電気学会、IEEE各会員。



藤原 秀雄 (正会員)

昭和21年生。昭和44年大阪大学工学部電子工学科卒業。同46年同大学院修士課程修了。同49年同大学院博士課程修了。工学博士。同年同大学電子工学科助手。昭和56年ウォータールー大学客員助教授。昭和59年マッギル大学客員副教授。スイッチング理論、故障診断論、特に検査容易化設計、検査パターン生成、組込み自己検査に関する研究に従事。著書「論理数学の基礎」(共著)、「デジタル回路の故障診断」(共著)。昭和52年電子通信学会学術奨励賞受賞。電子通信学会、行動計量学会、IEEE各会員。



小嶋 徹 (正会員)

昭和16年生。昭和38年大阪大学工学部電子工学科卒業。昭和40年同大学院修士課程修了。シャープ(株)入社後、集積回路設計、電卓技術を経て、集積回路の解析テスト業務に従事。現在、電子部品事業本部集積回路事業部第5技術部部长。



増井 捷宏 (正会員)

昭和19年生。昭和42年大阪大学工学部電子工学科卒業。昭和44年同大学院修士課程修了。同年、シャープ(株)に入社。中央研究所勤務後、現在、集積回路事業部にて論理LSI、メモリLSIのテスト関連業務に従事している。



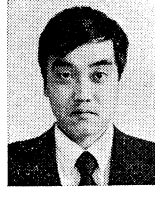
奥村 憲三

昭和27年生。昭和51年福井大学工学部電子工学科卒業。昭和53年同大学院修士課程修了。同年、シャープ(株)に入社。以来、集積回路事業部において、マイクロプロセッサ、ゲートアレイなどのテスト関連業務に従事。



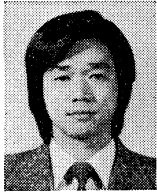
志方 洋一

昭和 22 年生。昭和 47 年日本大学理工学部数学科卒業。同年、日本電気(株)入社。以来、集積回路の CAD システムの開発に従事している。



永谷 三義 (正会員)

昭和 24 年生。昭和 47 年電気通信大学電波通信学科卒業。昭和 49 年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。以来、LSI 設計自動化の研究・実用化に従事。現在、同社厚木電気通信研究所集積回路研究部集積応用研究室研究専門調査員。電子通信学会会員。



山口 高

昭和 31 年生。昭和 55 年山口大学工学部電子工学科卒業。同年、日本電気(株)入社。以来、集積回路の CAD システムの開発に従事している。



大森 健児

昭和 20 年生。昭和 44 年東京大学工学部計数工学科卒業。昭和 47 年カリフォルニア大学バークレイ校修士課程修了。昭和 44 年日本電気(株)入社。中央研究所 C&C システム研究所において、コンピュータ・グラフィクス (隠線消去問題)、漢字パターンのデータ圧縮、マルチプロセッサシステム、論理シミュレーションマシン、オブジェクト指向言語の研究開発に従事。工学博士。電子通信学会会員。



須藤 常太

昭和 13 年生。昭和 37 年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。昭和 42 年同大学院博士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。

以来、半導体スイッチング素子、高速論理回路、パイポーラ論理 LSI、LSI 設計自動化の研究に従事。現在、同社厚木電気通信研究所集積回路研究部統括調査役。電子通信学会会員。



小池 誠彦 (正会員)

昭和 45 年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和 47 年同大学大学院修士課程修了。同年日本電気(株)に入社。現在同社 C&C システム研究所に勤務。この間、マルチプロセッサシステム、専用マシンシステム等のアーキテクチャの研究に従事。並列処理、ハードウェア処理技術に興味をもっている。電子通信学会会員。



唐津 修

昭和 22 年生。同 45 年東京大学工学部物理工学科卒業。同 50 年同大学院博士課程修了。同年日本電信電話公社入社。現在、同社厚木電気通信研究所において VLSI アーキテクチャ、VLSI 設計手法、VLSI CAD システムなどの研究に従事。著書「超 LSI 設計」(共著、渡辺誠編、企画センター、昭和 58 年)。工学博士。電子通信学会、電気学会、応用物理学会、米国物理学会各会員。



平山 正治 (正会員)

昭和 25 年生。昭和 48 年北海道大学工学部電気工学科卒業。昭和 50 年同大学院情報工学修士課程修了。同年、三菱電機(株)に入社。以来、中央研究所において、計算機アーキテクチャ、並列処理技術、VLSI 向き方式技術などの研究に従事。電子通信学会会員。



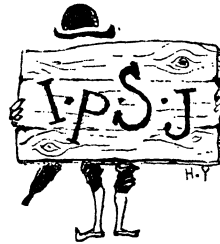
川戸 信明 (正会員)

昭和23年生。昭和46年東京大学工学部電子工学科卒業。昭和48年同大学院修士課程修了。昭和51年同大学院博士課程修了。同年(株)富士通研究所入社。現在、ソフトウェア研究部主任研究員。この間、CADシステムの研究開発に従事。最近は知識工学の手法及びその応用に興味を持つ。工学博士。電子通信学会、日本ソフトウェア科学会、IEEE各会員。



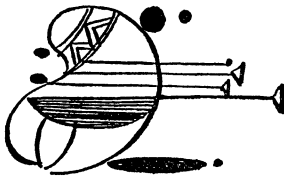
斎藤 隆夫 (正会員)

昭和26年生。昭和49年北海道大学工学部電子工学科卒業。昭和51年同大学院修士課程修了。同年(株)富士通研究所入社。現在、論理設計支援システムの研究・開発に従事している。電子通信学会、IEEE各会員。





## 研究会報告



### ◇ 第22回 設計自動化研究会

〔昭和59年7月17日(火)、於機械振興会館 6階65号室、出席者30名〕

#### (1) 階層的ハードウェア設計言語 H<sup>2</sup> DL の思想 宮田 操, 西尾誠一, 山崎 勇 (東芝)

##### 〔内容梗概〕

機能・理論設計レベルで階層的設計手法を効率よくサポートすることを目指した H<sup>2</sup> DL の、基本的な考え方と主な特徴点、および H<sup>2</sup> DL を用いた階層設計のプロセスについて述べた。H<sup>2</sup> DL は4種類の記述形式を有しており、これらの記述を繰り返すことにより、階層的に設計が進められていく。特に論理回路の機能抽象化表現であるハードウェア・プロセスの概念を導入したことにより、構成要素の機能だけに着目して階層的記述を機能レベルからおこなえることが、大きな特徴点である。(設計自動化研資料 84-22)

#### (2) 階層的ハードウェア設計言語 H<sup>2</sup> DL の言語仕様 一内部仕様記述とハードウェア・プロセス記述一

西尾誠一, 宮田 操, 山崎 勇 (東芝・総研)

##### 〔内容梗概〕

階層的ハードウェア設計言語 H<sup>2</sup> DL は、4つの記述からなるが、そのうちの内部仕様記述とハードウェア・プロセス記述について、その言語仕様を述べた。内部仕様記述は、レジスタ転送レベルで機能を記述するものであるが、(1)構成要素として、新たに導入したハードウェア・プロセスを用いることができ、設計の初期の段階から適用できる。(2)割込み的な機能が容易に記述できる、等の特徴がある。また、ハードウェア・プロセス記述は、その機能のみに着目し、ハードウェアによる実現方法、入出力端子、制御方法等は考慮しないレベルでハードウェアを抽象化した表現であり、各機能はプロセスとして手続き的に記述される。(設計自動化研資料 84-22)

#### (3) 制御フロー図面の入力と論理合成

伊藤 誠, 大平駿介, 倉橋英彦, 牧田敏彦  
蓼沼良一 (山梨大・工)

##### 〔内容梗概〕

制御論理回路の設計には DDL などの設計言語が数多く開発されている。しかし実際の設計者はプログラミング言語に近い形の記述に慣れているとは限らない。本システムは会話型のグラフィックエディタによって制御の流れをフローチャートの形で図面入力し、直列型の同期制御論理回路が自動設計できる。図面より抽出された制御論理式は単純化され、PLA パターンや機能素子記述となり、シミュレーションや基板への実装を行うことができる。また、補助機能として自動状態割当機能を持っている。

(設計自動化研資料 84-22)

#### (4) CMOS 標準セル自動生成システム: ACG

宮下 弘, 上田和宏 (厚木通研)

##### 〔内容梗概〕

論理 LSI のレイアウト設計自動化では標準セルを使用したビルディングブロック方式が広く採用されている。本報告では CMOS 標準セルのマスクパターンを自動生成するシステム ACG について述べた。P チャネルトランジスタとNチャネルトランジスタをペアとし、拡散領域の共通化により高密度セルを得るための新しいトランジスタ配置手法を提案しその有効性を示した。本システムはチップレベルの自動レイアウトシステムとインタフェースがとられる。ACG の利用により、従来の人手設計による標準セル設計と比較して、大幅な設計期間の短縮化が達成された。

(設計自動化研資料 84-22)

#### (5) MOS 論理回路の並列論理シミュレーションについて

竹之上典昭, 桐山正昭, 古賀義亮  
(防衛大・電気工学)

##### 〔内容梗概〕

LSI の発達と共に、論理回路の設計を MOS 回路の形態で行うことが多くなってきている。しかし、論理シミュレーションにあたっては、MOS 論理回路を AND・OR・NOT 等の論理素子に変換して従来のゲートレベルのシミュレータをそのまま用いることが多い。本論文では、MOS 論理回路をスイッチで結合されたネットワークとしてとらえ、負荷分散による並列処理可能なネットワーク型コンピュータを用いて MOS 論理回路のシミュレーションを行う方法について新たな提案を行った。また、アルゴリズム検証のた

め、大型コンピュータ上にシミュレータ MOSPLUS を作成した。その結果、ここで提案する論理シミュレーションの方法が有用であることを明らかにした。

(設計自動化研資料 84-22)

## ◇ 第 23 回 分散処理システム研究会

{昭和 59 年 7 月 20 日 (金)、於機械振興会館 地下 3 階 2 号室, 出席者 35 名}

### (1) 並列処理型待ち行列網シミュレータ D-SSQ について

佐藤 圭, 渡辺 尚, 中西 暉, 真田英彦  
手塚慶一 (阪大・工)

#### [内容梗概]

待ち行列網シミュレーションを並列処理により実行する際の時刻制御を, 事象駆動型による非同期方式で, かつ時刻逆転による論理矛盾発生の可能性を許して先行して実行させ, 矛盾発生時にはもとに戻す方式について考察した。本方式を先行制御方式と呼び, この方式を採る並行処理事象型待ち行列網シミュレータ D-SSQ の処理能力特性について検討を行っている。その結果, (1) 処理能力はプロセッサ台数に対して線形に増加すること, (2) 分散化オーバーヘッドが大きいことと過度の先行による無効処理が多いことから処理能力の絶対値は小さいこと, (3) 先行処理を適度に規制することにより処理能力の改善が図れることを示した。

(分散処理システム研資料 84-23)

### (2) D-SSQ における先行規制方式の検討

肥塚貞男, 渡辺 尚, 佐藤 圭, 中西 暉  
真田英彦, 手塚慶一 (阪大・工)

#### [内容梗概]

ノード分散型待ち行列網シミュレータ D-SSQ の処理能力はプロセッサ数に対し線形に増加するが, その絶対値は大きくない。これは先行し過ぎによる無効処理量が多いためである。本稿では先行に適当な規制を加えることにより無効処理量を減らし, 処理能力向上を図る先行規制方式について述べ, 実験, および近似解析によりその有効性を示した。また, 実験により D-SSQ と time-driven 型シミュレータの処理能力を比較し検討を行った。さらに, 先行規制方式を拡張した time+event-driven 型シミュレータを提案した。

(分散処理システム研資料 84-23)

### (3) リモートアクセスによる UNIX の分散処理 OS 化

谷口秀夫, 鈴木達郎 (横須賀通研)

#### [内容梗概]

本稿では, LAN が持つ高速性や同報機能といった特徴を生かしたサービス実現のために, 他ノードにあるファイルにアクセスできるリモートアクセス機能を UNIX に付加する際の制御方式について報告した。主な内容を以下に示す。

(1) 分散したファイルを統一管理する方式

(2) ファイルの集合に対する一括アクセスを, 従来の AP インタフェースの中に自然に実現する方式

(3) リモートアクセスの処理要求と処理結果を LAN を介して通信する制御方式

(4) リモートアクセス処理を実現するプログラムの構成法 (分散処理システム研資料 84-23)

(4) NESDEL を用いたプロトコルの記述について —HDLC と X. 25—

舟田和司, 高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一  
(東北大・通研)

#### [内容梗概]

筆者らは先に, プロトコル仕様の変更および保守のコストを減少させるため, 記述内容の理解の容易性を向上させるという観点から仕様記述言語 NESDEL を提案した。NESDEL では, 仕様の大局的な動作の記述と詳細記述を分離して与える。前者の記述形式として有向グラフ表現を用い, 後者の詳細記述にはプリミティブ (プログラミング言語の一種) を使用する。

本論文では, NESDEL を用いて具体的なプロトコル (HDLC と X. 25) を実際に記述してみることにより, その有効性を示す。また, メールシステムのエディタの仕様を記述した結果, NESDEL はプロトコル以外の仕様記述にも有効であることが分かっている。

(分散処理システム研資料 84-23)

### (5) 高速の光ファイバリンクを用いたプロセッサ間結合方式に関する検討

小柳津育郎, 魚住栄市, 星子隆幸 (横須賀通研)

#### [内容梗概]

100 メガビット/秒 程度の伝送速度を持つ高速の光ファイバリンクを介した  $N$  対  $N$  通信システムの中で, コストパフォーマンスに優れたプロセッサ間通信実現のための方式条件を提案した。プロセッサ間通信の対ソフトウェアインタフェースに関しては, 従来のチャンネルアダプタ (CTCA 等) を介した 1 対 1 通信を  $N$  対  $N$  通信向きに拡張するための機能条件を提案し, 下位のデータリンクレベル以下の機能・構成に関しては, 高速のプロセッサ間通信に適した伝送制御手順,

100メガビット LED に適した伝送路符号化方式等を明らかにした。(分散処理システム研資料 84-23)

(6)  $N$ 対 $N$ のループシステムにおけるプロセッサ間通信効率化に関する検討

星子隆幸, 魚住栄市, 小柳津育郎 (横須賀通研)

[内容梗概]

ループ伝送路を介した $N$ 対 $N$ のプロセッサ間通信において, 通信処理に要するソフトウェアのダイナミックステップ数低減並びに通信処理および障害処理に対するソフトウェア開発負担の軽減を可能とするプロセッサ間結合装置の機能条件を提案した. 本機能条件の適用により, 1対1チャンネル結合のプロセッサ間通信で採用されている複数サブチャンネルを用いた多重通信方式と同等のソフトウェア通信効率を,  $N$ 対 $N$ 通信システムで容易に実現可能となる.

(分散処理システム研資料 84-23)

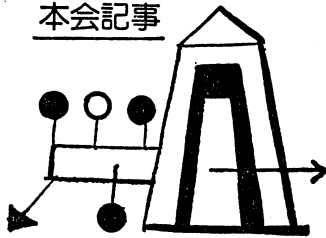
(7) 高速光ファイバループ用データリンクプロトコルの検討

魚住栄市, 星子隆幸, 小柳津育郎 (横須賀通研)

[内容梗概]

複数プロセッサ間を高速光ファイバを用いて接続する大規模な複合システムにおいて, 多重通信機能および待合せ機能を具備したプロセッサ間通信に適したデータリンクプロトコルを提案した. 本プロトコルの主な特徴は, トークン早期解放によるスループットの向上, データの分割転送によるメッセージ通過時間の短縮, トークンおよび応答フレーム構成としフレームチェックシーケンス (FCS) の対象とすることによる高信頼度化である. スループットの向上については, ループ長, ループ伝送速度, ノード数, データ長等をパラメータとして IEEE 80 Z トークンリングとの比較で示した. (分散処理システム研資料 84-23)

## 本会記事



### 第279回理事会

日時 昭和59年7月19日(木) 17:30~20:50  
 会場 機械振興会館5階 5S-1号室  
 出席者 坂井会長, 三浦, 榎本各副会長, 青山  
 鈴木, 反町, 寺田, 松本, 渡部各常務理事  
 高村, 澤田, 澁谷, 関, 鶴田, 棟上, 富永  
 中島, 福村, 三上各理事, 山本監事  
 野口東北支部長  
 (事務局) 坂元事務局長, 桜間, 田原各次長

#### 議 事

1. 前回議事録の確認
2. 総務関係 (渡部常務理事, 富永理事)
  - 2.1 昭和59年6月期に, つぎの会議を開いた.
 

理事会・編集委員会他	15回	}	61回
研究会関係	19回		
規格関係	27回		
  - 2.2 会員状況報告  
 昭和59年7月18日(現在)の会員状況  
 正会員 18,592名  
 学生会員 551名  
 賛助会員 291社 (413口)  
 購読員 97名  
 なお, 今回から「会員数の現況」報告様式を変更し, 会員増加目標とその達成状況がわかるようにした.
  - 2.3 各理事は関係の規程類を見直し, 9月理事会までに意見を事務局まで提出いただくことにした.
  - 2.4 電気関係四学会から連合大会への加入につき勧誘があり, 受諾することとした. 業務は事業担当で取扱うこととした.
  - 2.5 去る7月10日に文部大臣から定款改訂の認可があったので, 電子通信学会と友好協定に関する覚書を締結した旨報告があった.
3. 機関誌関係
  - 3.1 会誌編集委員会(寺田常務理事, 永井, 渋谷中島各理事)  
 第81回会誌編集委員会議事録により, 会誌25巻8号から11号までの編集状況につき報告があり, 了承された.
  - 3.2 論文誌編集委員会(反町常務理事, 棟上理事)  
 第76回論文誌編集委員会報告により, 投稿論文の処理状況につき報告があり, 了承された. また, 投稿論文が昨年度は15件/月であったが, 今年度はこれまで23件/月と増加している旨, あわせて報告があった.
  - 3.3 欧文誌編集委員会(高村, 福村各理事)  
 第65回欧文誌編集委員会議事録により, Vol.7, No.2は今月末に, No.3は目次を決定したので9月末に, 発行をそれぞれ予定している旨報告があり, 了承された.
  - 3.4 これまで懸案になっていた著作権に対する学会の立場を早急に明確にする必要があるので, 編集理事会を開いて検討を進めたい旨提案があり, 次のとおり了承された.
    - (1) 著作権を学協会に譲渡ないし委任するすう勢下にあるので, 著作権を学会に帰属さす方向で検討を進める. 来年1月号に掲載の機関誌原稿執筆案内に間に合うよう結論を出す.
    - (2) 著作権の審議と並行して, 海外販売, 翻訳出版等の検討を始める.
4. 事業関係 (鈴木常務理事, 澤田, 関各理事)
  - 4.1 第30回全国大会 (60年3月 於工学院大)  
 明日の運営委員会で決定予定の論文募集要領は, 同委員会に一任することを了承した.
  - 4.2 25周年記念シンポジウム  
 準備の進め方につき説明があり, 提案どおり了承された.
    - (1) 第31回全国大会の第1日目として, 昭和60年9月9日(月)に開催する.
    - (2) 全国大会運営委員会の下に榎本副会長を委員長とする小委員会を設け, 開催の形態, 内容等の具体案を検討する.
  - 4.3 標準化全国大会等の協賛依頼2件を承認した.
    - (1) 第27回標準化全国大会 (日本規格協会)
    - (2) システムと制御チュートリアル講座 (日本自動制御協会)
5. 調査研究関係 (松本常務理事, 三上理事)
  - 5.1 規格委員会  
 去る6月22日開催の第39回ISO/TC 97情報処理専門委員会および第78回規格委員会合同委員会報告により, 規格活動の現況につき報告があり, 了承された.
    - (1) 日本が提案した「光ディスク」の Net Work Item が承認され, SC 23 が新設されて日本が幹事国となった. なお, SC 23 の第1回総会は来年5月29日~31日に東京で開催予定.
    - (2) TC 97 の advisory group の会議が, 来

年5月27日～28日に東京で開催予定。

(3) 規格活動協力金の増額など規格活動上の問題検討には、総務担当が加わって協力する。

#### 5.2 25周年記念論文集編集基本計画および会誌8月号会告(案)について

(1) 基本計画について大綱は了承された。ただし、記念論文集の字句を記念論文に改め、広報と編集の配列を入れ換えるなど書き直すこととなった。

(2) 会告(案)については、編集担当理事と相談して見直しを行ったうえ、8月号に掲載することを了承した。

#### 5.3 去る4月10日～12日に開かれた「プログラム設計技法の実用化と発展シンポジウム」(主査木村泉)は、163名(うち非会員27名)の参加者を経て盛会であった旨の報告があり、了承された。

なお、講演者の参加費を無料にしたらとの所見が報告中にあるので、今後検討することとした。

#### 6. 国際関係(青山常務理事、鶴田理事)

6.1 11月に来日予定のACM前会長Brandin氏の講演会の準備を進めることとした。

6.2 中国電子学会電子計算機学会からの提携の申し入れについては、総務と国際担当で検討のうえ次回報告することとした。

#### 7. 日本学術会議について(福村理事)

本日、日本学術会議の第5部と電気・電子および情報工学の関連学協会との懇談会が開かれ、第13期会員選出手続日程等に関し説明があった。学術研究団体の登録受付期限は9月29日となったので、その対策を講ずることとした。

#### 8. 次回予定 9月20日(木) 17:30～

### 機関誌編集委員会

#### ○機関誌編集理事会

59年9月5日(水) 18:00～21:00に機械振興会館6階68号室で開いた。

(出席理事) 順不同

(会誌) 寺田、澁谷、中島(論文誌) 棟上

(欧文誌) 高村(総務担当) 富永

#### 議 題

##### 1. 著作権

##### 2. 海外での販売、翻訳出版

(1) 欧文誌の海外販売

(2) 会誌、論文誌の翻訳、販売

##### 3. 和文論文誌

(1) 月刊化の体裁、価格

(2) トレスの投稿者負担

(3) 同一論文のPart 1, Part 2の可否

##### 4. その他

(1) 科学技術庁からの編集委託

(2) 不良出版社の会誌への広告

(3) その他

#### 議 事

1. 本日の議題を了承した。

2. 著作権について

各機関誌は著作権に対して、それぞれ異なった対応をしているので、次のように機関誌原稿執筆案内に明記することとした。

(1) 会誌

著作権は学会に帰属することを原則とするが、著者の了承を優先させる。

(2) 論文誌

著作権はさかのぼって学会に帰属する旨、会員に周知させる手段を講ずる。

(3) 欧文誌

創刊号から©(copy right)が明記しており、執筆案内に明記する。

3. 機関誌の海外販売と翻訳出版について

欧文誌の海外販売の拡張対策として、海外の3社から取扱い希望がきている旨の説明があった。1社に専有させるより、2社で拡販させるのがよいということになった。

また、Scripta社は、すでに電子通信学会で論文誌の英訳発行を行っているので、その事情を調査のうえ、検討することとした。

4. 会誌

会員の幅広い層が興味をもつ解説として、例えばユーザがpracticalな意見が述べられるprogramming practiceの特集(inviteと応募と両方)を行うことが提案された。

5. 寄稿論文にPart 1, Part 2, ……の形式を認めるべきではないと意見が一致した。

6. 論文誌は61年1月から月刊化することとし、どのような体裁(登録費も含め)で行うか、検討することとした。

7. その他

(1) 科学技術庁から「知識データベース」についての解説原稿作成について委託(約200万円)したい旨の申出があった。

(2) 不良出版社の会誌への広告掲載については、事情および広告業界の慣例をよく調べて対処する。

(3) ACMの会誌に掲載するIPJSJの広告原稿案ができたので理事会に提出する。

## ○第 82 回 会誌編集委員会

59年8月9日(木) 18:00~20:00 に機械振興会館 6階65号室で開いた。

(出席者) 澁谷理事, 中島理事

(FWG) 小山, 岩元, 上野, 後藤各委員

(SWG) 永田, 藤崎, 松岡各委員

(HWG) 南谷, 島田, 東田, 前田各委員

(AWG) 津田, 石塚, 小西, 高根, 梶木, 服部  
溝口各委員

## 議 事

1. 前回議事録の確認
2. 学会誌の目次(案)により, 25巻9号から12号までの編集の進捗状況を確認した。
3. 各 WG 主査から「解説・講座等管理表」により原稿の予定あるいは脱稿状況につき, つぎの通り詳細に説明があった。
  - (1) FWG
    - (i) 査読中の解説4編
    - (ii) 知識工学特集号(第1次案)がFWGおよびSWGから提案された。AWGその他にも関係が深いので, 整理のうえ, 再提案することとした。
  - (2) SWG
    - (i) 上記の知識工学特集号の共同提案。
    - (ii) 下記の解説2編の執筆内容(案)を了承した。
      - (a) ワーニエ・メソッド
      - (b) Mother Systemによるソフトウェアの設計と製造
  - (3) HWG
    - (i) 「意味ネットワークとそのハードウェア化の動向」と知識工学特集の関係进行调整する。
    - (ii) 「RISCのアーキテクチャ」の標題を分かりやすくする。
    - (iii) 大特集「オプトエレクトロニクス」(60年8月)の目次(案)の再確認。
  - (4) AWG
    - (i) 「研究開発用飛行シミュレータ」およびSWGからAWGに回ってきた「UMF電子ファイリングシステムの特徴と導入事例」の解説2編を執筆内容(案)により了承した。
    - (ii) 7月号に掲載された電子メールについての談話室に反応があった旨筆者から便りがあった。次回委員会で提案を検討することとした。
    - (iii) 61年2月号(小特集(案))として「データ構造」の企画を提案した。
- (5) 文献ニュース小委員会を去る7月31日(火)に開き, 9月号のための書評, ニュース, 文献紹介

の原稿を査読完了した。

5. その他
  - (1) 機関誌原稿執筆案内のreviewをすることとした。
  - (2) 59年度会誌編集委員名簿を確認した。
6. 次回予定 9月6日(木) 17:30~

## ○第 83 回 会誌編集委員会

59年9月6日(木) 18:00~20:15 に機械振興会館 6階65号室で開いた。

(出席者) 寺田常務理事, 澁谷理事, 中島理事

(FWG) 疋田, 小山, 佐藤各委員

(SWG) 永田, 藤崎, 居原田, 徳田, 藤林, 松岡各委員

(HWG) 南谷, 大森, 島田, 川野(谷代), 東田

前田, 村井各委員

(AWG) 津田, 四条, 保原各委員

## 議 事

1. 前回議事録の確認
2. 機関誌編集理事会報告
 

前日(9月5日)開かれ, 著作権や論文誌の翻訳発行, 欧文誌の海外での拡販などにつき, 提案と検討をおこなった。
3. 学会誌の目次(案)により, 25巻10号から26巻1号までの編集の進捗状況を, つぎのとおり確認した。
  - (1) 25巻10号(大特集)
 

目次(案)に従い, 予定通り編集をすすめている(170~180p.)。
  - (2) 25巻11号
 

「ソフトウェアの法的保護」4編と「プログラム設計技法のシンポジウム」の中の7編とパネル討論を掲載することとして, 編集をすすめている。ただし, 後者の「シンポジウム」については, 9月号の続編である旨も含めてその趣意を書く。
  - (3) 25巻12号(特集号)
 

目次(案)に従い, 原稿が集まっている。ただし, 13編のうち, 未脱稿5編の促進をはかりつつある(130~140p.)。
  - (4) 26巻1号
 

解説4編ぐらいが不足するので, 各WGの協力を促進することとした。
4. 各 WG 主査から, 「解説・講座等管理表」により原稿の予定あるいは脱稿状況につき, 詳細に説明があった。
5. 次回予定 10月11日(木) 17:30~

## ○第 66 回 欧文誌編集委員会

59年9月18日(火) 17:30~20:15 に機械振興会

館 6 階61号室で開いた。

(出席者) 高村委員長, 井上, 牛島, 金子, 亀田  
志村, 田畑, 藤村, 益田, 和田各委員

### 議 事

#### 1. 前回議事録の確認

#### 2. 欧文誌発行状況報告

Vol. 7, No. 3 は編集作業を進めている。ただし, 論文 No.221 は, 数式が多いので, 1 段組みを了承した。

#### 3. 投稿原稿の処理状況報告

原稿管理表および寄稿査読報告により, 前回委員会以降の投稿原稿処理状況につき報告があり, 採否と照会手続きをきめた。

#### 4. Vol. 7, No. 4 の目次(案)

査読終了した論文のうち, No. 160 以下 7 編を掲載することとした。

#### 5. その他

(1) 去る 9 月 5 日に開かれた「機関誌編集理事会」の議題のうち, 欧文誌に関係のある著作権, 欧文誌の海外での買い取り販売などにつき報告された。

(2) 59 年度欧文誌編集委員名簿を確認した。また, 57 年 6 月以来英文査読 (Advisor, technical writing) をお願いした Freeland 女史 (IBM) が帰国される。後任として推薦された Cleveland 女史について, その履歴書により異議なく了承した。

#### 6. 次回予定 59 年 11 月 13 日 (火) 17:30~

### ○第 77 回 論文誌編集委員会

59 年 9 月 20 日 (木) 15:00~17:30 に機械振興会館 6 階 69 号室で開いた。

(出席者) 反町常務理事, 棟上理事, 中所, 川合  
村井, 牧之内, 米崎各委員

### 議 事

#### 1. 前回議事録の確認

#### 2. 投稿論文の処理 (59 年 8 月~9 月)

投稿 (27 編), 採録 (21), 不採録 (3)

#### 3. 査読期限の切れた論文 9 編を照会あるいは督促することにした。

#### 4. 問題論文 4 編について検討した。

#### 5. 機関誌原稿執筆案内を見直し, 連続論文は認めないことを確認した。

#### 6. 次回予定 10 月 18 日 (木) 15:00~

各種委員会 (1984 年 8 月 21 日~9 月 20 日)

○ 8 月 23 日 (木) グラフィクスと CAD 連絡会

○ 8 月 27 日 (月) 歴史特別委員会

アーキテクチャワークショップイ

ンジャパンシンポジウム打合せ

○ 8 月 28 日 (火) グラフィクスと CAD 連絡会

○ 8 月 31 日 (金) マイクロコンピュータ研究会

ローカルエリアネットワークシン  
ポジウム打合せ

○ 9 月 3 日 (月) TC2 小委員会

○ 9 月 4 日 (火) グラフィクスと CAD 研究会・連  
絡会

○ 9 月 14 日 (金) 自然言語処理シンポジウム実行委  
員会

○ 9 月 17 日 (月) データベース・システム研究会・  
連絡会

アーキテクチャワークショップイ  
ンジャパンシンポジウム実行委員  
会

○ 9 月 18 日 (火) 情報システム研究会・連絡会  
設計自動化研究会

○ 9 月 19 日 (水) 知識工学と人工知能研究会・連絡  
会

○ 9 月 20 日 (木) コンピュータビジョン研究会・連  
絡会

### 〔規格関係委員会〕

○ 8 月 21 日 (火) SC 6/WG 3

○ 8 月 22 日 (水) SC 2 Ad hoc, SC 5/Graphics WG  
LAN JIS/WG 2

○ 8 月 23 日 (木) SC 15

○ 8 月 24 日 (金) SC 18/WG 4

○ 8 月 27 日 (月) 用語 JIS, LAN JIS/WG 1

○ 8 月 28 日 (火) SC 2, トランスポートサービス定  
義 JIS/WG

○ 8 月 29 日 (水) SC 6/WG 1, SC 16/WG 5

○ 8 月 30 日 (木) SC 7, SC 14

○ 8 月 31 日 (金) LAN JIS

○ 9 月 3 日 (月) SC 2 Ad hoc, SC 16/WG 1, SC  
18

○ 9 月 4 日 (火) SC 16/WG 5, SC 16/WG 6, SC  
18/WG 2

○ 9 月 6 日 (木) SC 6/WG 2, SC 13, SC 16/WG 4  
決定表 JIS

○ 9 月 10 日 (月) SC 6/WG 1, SC 16

○ 9 月 11 日 (火) SC 6/WG 3

○ 9 月 14 日 (金) SC 1/WG 7, SC 18/WG 4

○ 9 月 17 日 (月) SC 5/PL/I WG, SC 16/WG 5  
Ad hoc

○ 9 月 18 日 (火) SC 6/WG 2

○ 9 月 19 日 (水) SC 10

○ 9 月 20 日 (木) SC 5, SC 6/WG 1, SC 16/WG 5  
LAN JIS/WG 2

## 新規入会者

昭和59年9月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです(会員番号, 敬称略).

【正会員】小用謙司, 雪浦和雄, 大倉景道, 高橋邦武, 徳永光芳, 杉山 清, 折田三弥彦, 石橋克己, 小島一美, 佐藤 宏, 森 正美, 山本雅禎, 入部眞弓, 大里真理子, 岸田 浩, 小島一記, 小寺 誠, 相馬清, 中村智子, 眞島祥子, 宮田行伸, 渡辺貞一, 新井信, 尾崎 眞, 坂本広幸, 篠木幸隆, 中村保雄, 渡部勇二, 佐藤恵子, 鈴木春美, 大沢昭夫, 岩瀬皓一, 金元燮, 浅野由裕, 石川和男, 石丸洋二, 市来睦子, 一瀬 章, 井出勉啓, 伊東範武, 井上謙太郎, 今井孝夫, 入江正二, 岩城宏之, 岩本和夫, 上原和典, 植村博一, 内海 保, 海老澤正男, 太田 隆, 金湖富士夫, 川北利保, 川島泰正, 岸 信一, 栗山和也, 栗田裕正, 古賀一成, 小島賢二, 小西正人, 小林正二, 近藤恵子, 近藤雄司, 後藤理恵子, 齊藤伸二, 佐伯英朗, 佐藤 洋, Sanamrad Mohammadali, 式部洋晶, 島村 浩, 下鍋秀之, 鈴木吉美, 世良哲也, 曾根広尚, 園田高敏, 竹谷知佳子, 田中伸佳, 田中 宏, 田中由晴, 谷口照男, 谷本一孝, チア・ブンスン, 出口栄彦, 徳島 勉, 戸倉武彦, 豊川博圭, 土井悦郎, 中井孝, 中根一成, 西村 薫, 萩原徳望, 畠山正行, 畑部道德, 林 茂昭, 半田 勇, 平尾壮一, 平田佐枝, 藤枝秀生, 藤原 洋, 船田 浩, 星 哲夫, 本田克己, 前田 清, 松原正治, 三村徳太郎, 山岡剛夫, 山下昌子, 山持和弘, 山田雅彦, 山本裕美, 横手正司, 米山裕, 渡邊繁樹, 渡辺雅仁, 渡辺 靖, 青木 泰, 赤井裕文, 秋田康博, 秋満雅治, 秋吉英治, 阿南洋一郎, 荒木勇一郎, 生島浩子, 池田勝志, 石井俊文, 石川 徹, 石田利夫, 伊藤 崇, 井上亜紀彦, 上嶋利明, 植野勇次, 内田伸治, 浦田富男, 江戸研治, 大芝壽昭, 大津呈次, 大沼 章, 大橋千鶴, 岡崎昌樹, 岡村真吾, 小澤泰裕, 荻野知仁, 笠原和義, 勝又拓海, 神田昌幸, 北岡正剛, 北村伊佐雄, 鬼頭美佳, 熊田原史朗, 倉田雅美, 黒河富恵, 小坂昌克, 小島元和, 小林功, 近藤直絨, 後閑雅文, 五島拓矢, 雑賀充宏, 斉藤健, 斎藤 亮, 坂本頼之, 佐々木道孝, 佐藤純一, 柴田知行, 芝田洋祐, 島田 豊, 島貫郁夫, 須賀 隆, 高木吉久, 高田幸司, 高橋 亨, 高橋浩之, 高畑正美, 竹沢康仁, 田島由徳, 龍澤 学, 田中信宏, 田中裕二, 常石隆司, 中村武典, 中村知司, 中村英敏, 野尻和伸, 長谷川浩, 畠 寿之, 畑中咲恵, 八方克行, 原田照己, 馬場義紀, 日當瀬良夫, 平井紳一郎, 平賀洋, 広木光一, 布施雅弘, 堀内 孝, 松井邦之, 松島康弘, 松永 茂, 松本賢司, 万代享宏, 水上真澄, 三星恵介, 武藤元紀, 森 巧, 山口 浩, 山口由二, 山田秀行, 山田雄二, 山羽敬一, 山本泰治, 山本賢, 湯本佳樹, 吉田 明, 渡辺孝生, 野口俊之, 西谷卓史, 宮岡伸一郎, 高橋利夫, 中村 肇, 北村幸太, 上乘 彰, 東 澄, 石川隆則, 石塚晴雄, 市村孝夫, 伊藤 稔, 今井 潤, 岩垣博美, 植田一廣, 榎本恭子, 大石和寛, 大木 茂, 大豆生田昌己, 大森勝之, 岡田健二, 小口智子, 小山直和, 角谷 謙, 金井

崇浩, 川崎敬二, 川出智幸, 川村 達, 北村昌良, 栗原恒弥, 黒森 弘, 桑田圭三, 河野大洋, 小林紳一, 小林弘和, 小松孝彦, 斎藤憲彦, 笹野哲夫, 佐藤昌幸, 島田敏明, 白柳 潔, 杉目 高, 菅生紳一郎, 鈴木 明, 鈴木一史, 鈴木桂二, 竹内恵里子, 武村光雄, 立川恭司, 多田邦春, 田中哲司, 戸田 学, 外村元伸, 中村為雄, 西嶋智恵子, 西谷昌寿, 西田行輝, 根元義章, 長谷川一行, 鳩貝耕一, 平野広美, 広田芳仁, 深井貴美子, 伏見正弘, 本田正澄, 松尾潤一, 松永祐一, 松村 博, 水野 尚, 三井武良男, 宮崎と志勝, 宮澤清人, Mendez Raul, 守屋宏一, 山田 步, 山本敏夫, 吉野あすか, 刘 天祥, 上松弘明, 森本恭隆 (以上 293名)

【学生会員】磯谷湖人, 井土俊樹, 江釣子裕, 掛下哲郎, 柏 政志, 込山 学, 坂口 徹, 竹岡尚三, 田中一郎, 辻村健治郎, 徳永浩二, 原 裕行, 藤本芳一, 峯村治実, 宮坂 明, 三和真一郎, 向井俊晴, 湯瀬裕昭, 小川和幸, 荒谷 真, 石田真美, 石塚治志, 伊藤悦雄, 井戸隆明, 岩崎祥治, 大西 治, 小田誠雄, オーデアリ・ジャンワン, 甲斐郷子, 北野正明, 工藤育男, 小池宏枝, 斉藤修一, 嶋田憲司, 鈴木敬, 隅田哲夫, 高野賢二, 高橋達也, 高山泰博, 竹田尚彦, 中川明生, 中島 勝, 中島 聡, 仲瀬明彦, 林耕司, 波里純次, 日置純二, 船戸 清, 松尾篤弥, 渡辺俊雄 (以上 50名)

## 採録原稿

## 情報処理学会論文誌

昭和59年9月の論文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです(カッコ内は寄稿年月日).

- ▷黒沢由明: 平均濃度近似による濃淡画像の2値化表示方式 (58. 9.22)
- ▷上原憲二, 堀川博史, 大川 勉, 高野 彰, 春原 猛: コンパイラのテスト網羅性判定ツール-CGRAM (58.10.14)
- ▷梅谷征雄, 辻みちる, 岩沢京子: 数値シミュレーション用プログラミング言語 DEQSOL (58.11. 7)
- ▷中前榮八郎, 原田耕一, 金田和文, 安田峯生, 佐藤明直: 多重構造物の断面輪郭線からの再構成と半透明手法による内部構造のステレオ表示 (58.11.11)
- ▷岩根雅彦, 佐藤文孝: ある分割問題の動的計画法による高速アルゴリズム (58.11.15)
- ▷山之上卓, 安在弘幸: 属性付構文指示翻訳系の生成系 MYLANG (59. 1.13)
- ▷青江順一, 山本米雄, 島田良作: 行置換によるスペース行列の効果的縮小アルゴリズム (59. 2. 6)
- ▷寺田松昭, 高木 悟, 樫尾次郎, 安元精一, 伏見仁志, 中西宏明: 高速パケット伝送路用コマンド多重処理形前置処理装置 (59. 2.27)
- ▷小野令美, 戸田英雄: Runge-kutta 5段5次型と6段6次型の実用公式 (59. 3.12)



- ▷福島 忠, 小林芳樹, 平沢宏太郎, 坂東忠秋, 柏岡誠治, 加藤 猛: マルチマスクオペレーションを効率良く実行する画像処理用 LSI-ISP のアーキテクチャ (59. 3.21)
- ▷沼尾正行, 志村正道: 関数型記号処理言語の分散システムに適した評価法 (59. 3.23)
- ▷美濃導彦, 松瀬哲朗, 坂井利之: 合法パターン頻度分布に基づく9か国文字の類別 (59. 4. 9)
- ▷有澤 誠: 形式文法によるプログラム複雑度の特徴づけ (59. 4.20)
- ▷渡辺富夫: 成人間コミュニケーションにおけるエントレインメント (音声一体動同期現象) の分析 (59. 4.25)
- ▷黒沢憲一, 平沢宏太郎, 葛貫壮四郎, 米田健治, 坂井吉男, 萩中弘行: エレベーターの知能群管理方式 (その1: 呼び割当て論理) (59. 5. 1)
- ▷山崎晴明: 分散型演繹データベースシステム: SD<sup>3</sup>とそのプロトコル (59. 5.21)
- ▷松田秀雄, 田村直之, 小畑正貴, 金田悠紀夫, 前川禎男: 並列 Prolog 処理系 “K-Prolog” の実現 (59. 5.23)
- ▷鱒坂恒夫, 阿草清滋, 大野 豊: 関数スキーマベースを用いたソフトウェア設計自動化 (59. 6.18)
- ▷紀 一誠: クラスごとに異なるサービス要求率をもつ FIFO ノードを含む待ち行列網の近似解法 (59. 6.26)
- ▷富永昌治: 測色論に基づいたコンピュータ・カラー・ビジョンのための写像法 (59. 6.27)
- ▷長谷川誠, 重井芳治: スタック高速化のための管理アルゴリズムとその解析 (59. 6.29)
- ショートノート
- ▷村上 純, 大岩 元: スプライン関数による軸上電位分布の表現 (59. 3.30)
- ▷小山雅庸, 北原紀之: マニピュレータのパーソナルコンピュータアニメーションの一手法 (59. 5.28)

## Journal of Information Processing

昭和59年9月の欧文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです (カッコ内は寄稿年月日)。

- ▷仙波一郎: Generation of Permutations by Using an Input Restricted-deque or an Output Restricted-deque (57. 7. 5)
- ▷本位田真一, 杉八合勲: Performance Evaluation by Qpit\*i (58.12.15)
- ▷古屋 清, 当麻喜弘: On Diagnosabilities of Systems with Incomplete Test (59. 4.12)
- ▷高崎 茂, 船津重宏: Functional Level Testability Measure Analysis in Digital Networks (59. 7. 2)

## 事務局だより——全国大会懇親会の息吹き

このたびの東北工業大学での全国大会は、何より心配していた初日(9月11日)の二百二十日も、みちのくらしい秋空に恵まれ、約900件の論文の発表と1,700名の参加があり、地方開催としてはこれまでの最大規模となりました。大会当日の運営は勿論、半年前から準備に取り組まれた現地実行委員の方がたは、さぞや大へんだっだろうと、感謝の気持ちで一杯です。

今大会では、創立以来初めて懇親会を開きました。当日の午前中の申込みが、わずか30名で、どうなるのやらと気をもみましたが、予定通り200名余の参加があり、胸をなで下ろしました。

懇親会では、東北支部設立でご尽力された大泉先生の仙台名物ホヤ談議を交えた歓迎のあいさつのおと、支部長野口先生の乾杯で一斉にスタートするや、ホテルで準備した自慢の料理の山も、たちまち崩れ、座をもたせるために、即席の皿を追加することになりました。全国から参集の若い会員の“健啖・饒舌”おりを見ていると、秋とはいえ、底なしだと恐れ入ってしまいました。知識も食物もボリボリと貪りくう若々しい会員の生き生きした姿に、感心をとおり越し、まことに恐れ入りました。(1984.9.26 坂元)

昭和 59 年度各種委員会名簿

本年度の規格委員会の委員はつぎの通りです。(理事, 編集委員は毎号, 査読委員は3月号, 調査研究運営委員会, IFIP 国内委員会は8月号に掲載されますので省きます.)

1. 規格委員会 (電子計算機及び情報処理)

- ◎和田 弘 ○池田 芳之 ○松本 大四 新井 克彦
安楽 芳伸 石井 治 魚木 五夫 浦城 恒雄
大桑 邦夫 太田健一郎 大山 政雄 尾沢 好一
金子 礼三 菅 忠義 澁谷多喜夫 島 弘志
島内 剛一 関口 守 瀬野 健治 高橋 茂
田中 克彦 筑後 道夫 鶴田 清治 棟上 昭男
東山 尚 研野 和人 中田 育男 西野 博二
堀江 達 宮川 洋 元岡 達 森 宗正
吉岡 忠 和田 英一

1.1 SC 1 専門委員会 (用語)

- ◎西野 博二 ○菅 忠義 ○関野 陽 ○児西 清義
◎西村 恕彦 ○高橋 廣光 荒川 和生 伊藤 貴
魚木 五夫 内田啓一郎 浦野 義頼 大野 義夫
小川 元孝 小野寺 哲 神尾志津男 川野 繁一
久島 重良 倉田 元稔 齊藤 彰夫 坂井 喜毅
佐藤 文孝 下田 宏一 高野 彰 中村 真和
中村せつ子 仁科 亮三 平井 通宏 松田 和博
村上 道夫 山内 成志 米崎 直樹

1.2 SC 2 専門委員会 (文字セットとコード化)

- ◎和田 英一 ○伊藤興史郎 ○吉田 滋 東 信弘
粟田 信 磯崎 澄 大島 茂 加藤 重信
神原 慎一 河本 清人 坂井 喜毅 竹内 一正
長谷川雅美 八田 敏 浜口 芳夫 村上 恒夫

1.3 SC 5 専門委員会 (プログラム用言語)

- ◎中田 育男 ○徳永 英二 井上 謙蔵 井原 実
猪瀬 武久 植村 俊亮 菅 忠義 坂井 喜毅
島内 剛一 高貴 隆司 田中 省三 永瀬 淳夫
西村 恕彦 野原 栄次 広瀬 裕 藤中 恵
穂坂 衛 細谷 穂鷹 米田 良介 基昭
森沢 好臣 山口 和彦 穂田 和夫 松岡 英一

1.3.1 SC 5/COBOL WG 小委員会

- ◎西村 恕彦 ○小旋 暉雄 新井 義夫 伊藤 龍彦
伊藤 靖彦 今城 哲二 植村 俊亮 大駒 誠一
坂井 喜毅 島内 剛一 手島 和夫 中島 博文
野原 栄次 平須賀しづ江 宮内 和人 山岡 克範
山谷 得嗣 吉田 正雄 吉村鉄太郎

1.3.2 SC 5/FORTRAN WG 小委員会

- ◎菅 忠義 青山 明夫 大園 茂生 唐木幸比古
新川 勇 関川 弘和 塚越 真 徳永 英二
中村 享 仁科 尚 西村 和夫 西村 恕彦
萩原 茂夫 平林 俊弘 松岡 恭正 松塚 基昭
渡辺 孝

1.3.3 SC 5/PL/I WG 小委員会

- ◎永瀬 淳夫 大谷 秀樹 小田 英雄 河内 浩明
川瀬 博光 菅野 完一 渋谷 純一 島内 剛一
白神 康志 関川 弘和 竹田 陽行 淵 一博
山下 喬樹 吉野 松樹

1.3.4 SC 5/PASCAL WG 小委員会

- ◎和田 英一 相沢 良平 青山 明夫 浅田 高春
石田 和男 石畑 清 上原 憲二 小川 貴英
寛 捷彦 川合 慧 佐渡 一広 武市 正人
津田 一生 手島 和夫 中田 育男 藤丸 政人
前野 年紀 森 俊二 安村 通晃 山田 勲
山守 成樹 米田 信夫

1.3.5 SC 5/Graphics WG 小委員会

- ◎穂坂 衛 ○木村 文彦 相澤 良平 今村 泰介
宇野 栄 大須賀節雄 川合 慧 小島 俊雄
島田 静雄 下村 陸夫 滝浜 俊正 田村 英世
東海伊查雄 棟上 昭男 中島 尚正 服部 幸英
馬場 正存 三島 良一 水野 寿孝 吉田 幸二

1.4 SC 6 専門委員会 (データ通信)

- ◎澁谷多喜夫 ○谷 公夫 飯倉 正夫 石坂 充弘
宇野沢庸弘 小野 欽司 河本 清人 栗山 幸造
齐藤 忠夫 坂井 喜毅 渋谷 隆弘 杉田 信昭
中山 信行 仲瀬 照 藤居 薫 藤村 紀明
藤本 寛 \*川野 繁一

1.4.1 SC 6/WG 1 小委員会 (制御手順)

- ◎谷 公夫 ○川野 繁一 井出 政司 植野 弘宣
宇治橋義弘 岡本 慎男 上垣内 巧 後藤 浩一
小林 哲二 七條 卓己 高見 一正 永田 悟
庭山 正幸 松尾 一紀 和田 宏行

1.4.2 SC 6/WG 2 小委員会 (公衆データ網)

- ◎飯倉 正夫 岩崎 誠司 市橋 立機 太田 和夫
河本 清人 佐藤 文和 田中 雅彦 田部 幹雄
富田 弘雄 中野 豊 林 健二 馬場 康夫
平松 幸男 藤岡 雅宣

1.4.3 SC 6/WG 3 小委員会 (データ回線終端装置関係)

- ◎藤本 寛 ○小野 龍宏 飯島 康雄 奥田 邦夫
小田島文夫 草原 寛司 小池 伸一 島貫 猛
田中 泰也 本名 秀夫 松成 進 矢代 善一
横山 真二

1.5 SC 7 専門委員会 (システムの設計と文書化)

- ◎菅 忠義 ○東 基衛 大隅 晃 太田 宗洋
金子 英一 川合 慧 黒田 寿一 坂井 喜毅
杉山 元伸 遠山 澄 中村 真和 長野 宏宣
西村 恕彦 松原 友夫 松山 辰郎 山本 喜一
吉村 正 森嶋 俊一

1.6 SC 9 専門委員会 (数値制御用プログラミング言語)

- ◎研野 和人 ○井上久仁子 井越 昌紀 井上 高志
内田光太郎 大高 義穂 北川 昭八 坂井 喜毅
関口 久夫 武田 智雄 田中久仁夫 榎木 武久
野田 茂夫 花田 洋一 松村 豊 三好 長則
山岸 正謙 矢部 真一

1.7 SC 10 専門委員会 (磁気ディスク)

- ◎金子 礼三 ○佐藤 勇武 伊藤富士雄 川嶋 正捷
喜多村俊二 坂井 喜毅 佐々木 捷 佐々木 実
田北 和之 長谷 和幸 浜田 俊彦 林 泰樹
松田 若竹 水野 進 村山 恭則 森 宗正
山口 富夫 湯浅 正弘 吉川 正利

1.8 SC 11 専門委員会 (フレキシブル磁気媒体)

- ◎石井 治 ○佐藤 孝紀 磯崎 真 伊藤 福蔵
伊藤陽之助 今岡 信之 大石 完一 岸上 功夫

坂井 喜毅 竹内 正 多羅尾悌三 恒川 清爾  
 槻木 公一 徳永 賢次 富田 正典 中山 正之  
 長谷 和幸 細川 茂文 松本富士雄 村山 恭則  
 森田 一彦 湯浅 正弘

1.8.1 SC 11/FD-WG 小委員会 (フレキシブルディスク)

◎磯崎 真 ○佐々木 勝 荒木 学 伊藤 福蔵  
 大矢 健雄 岡田 透 川嶋 正捷 坂井 淑晃  
 佐藤 知康 佐野 正樹 関 隆夫 多羅尾悌三  
 中馬 顕 槻木 公一 津積 穰二 徳永 賢次  
 豊島 忠彰 中山 正之 増淵 政行 松本富士雄  
 溝口 俊明 森田 一彦 矢野 矩雄 山崎 昭

1.9 SC 12 専門委員会 (計測用磁気テープ)

◎石井 治 ○佐藤 孝紀 伊東 勇 小川 和夫  
 加藤 嘉一 上坂 五平 小林 洽 坂井 喜毅  
 多羅尾悌三 並河 守 樋口 安宣 村田 修二

1.10 SC 13 専門委員会 (I/O インタフェース (機器相互))

◎棟上 昭男 ○大石 東作 相村 治継 荒川 与助  
 飯田麒一郎 梅木 尊則 岡田 康行 岡田 義邦  
 小川 雄司 菊地 健次 久保 良輝 桑原 敏  
 小瀬村 清 児西 清義 坂井 喜毅 下村 義一  
 鈴木 昂 田北 和之 武智 吉信 中山 正之  
 浜 敬三 松本 勝昭 森 宗正 安川 清一

1.10.1 SC 13/WG 1 小委員会 (チャネルレベルインタフェース)

◎岡田 義邦 ○桑原 敏 大石 東作 尾本 林貞  
 川本 真志 菊地 健次 君塚 邦男 児西 清義  
 武智 吉信 長井 定一

1.10.2 SC 13/WG 2 小委員会 (デバイスレベルインタフェース)

◎森 宗正 ○小瀬村 清 相村 治継 荒川 与助  
 梅木 尊則 飯田麒一郎 岡田 康行 小川 雄司  
 久保 良輝 下村 義一 鈴木 昂 田北 和之  
 中山 正之 浜 敬三 松本 勝昭 安川 清一

1.11 SC 14 専門委員会 (データコード)

◎大山 政雄 ○森 英一 荒川 真三 伊藤 鉞夫  
 上田陸奥夫 上野 滋 大崎 正廣 香取 浩一  
 北野 睦郎 栗原 孝 坂井 喜毅 坂本 広志  
 椎名 克夫 徳永 英二 橋本 哲也 原田 寿夫  
 船崎 武男 森 道直 安田耕吉郎 山田 邦雄

1.12 SC 15 専門委員会 (ラベルとファイル構成)

◎瀬野 健治 ○村田 紀男 古賀 尚之 後藤 和夫  
 坂井 喜毅 下田 宏一 花沢 満 平須賀しづ江  
 福井 隆司 水野 晴敏 森本真一郎 矢嶋 祐次

1.13 SC 16 専門委員会 (開放型システム間相互接続)

◎元岡 達 ○苗村 憲司 天野 正紀 飯野 守夫  
 尾沢 好一 川端 哲男 小林 善和 斉藤 忠夫  
 坂井 喜毅 島 直 鈴木 直 高橋 浩  
 田中 英彦 勅使河原可海 中山 信行 野村 雅行  
 服部 武司 松下 温 水野 忠則 三山 憲男  
 若山 博文 \*森野 和好

1.13.1 SC 16/WG 1 小委員会 (参照モデル)

◎勅使河原可海 ○高橋 修 ○勝山光太郎 浅野正一郎  
 伊藤 安治 今本 善信 植野 弘宣 浦野 義頼  
 川村 克彦 中澤 真 長谷川 新

1.13.2 SC 16/WG 4 小委員会 (アプリケーション及びシステム管理)

◎若山 博文 ○高橋 祥兼 木村 道弘 小林 偉昭  
 小林 善和 佐藤 茂夫 吉松 敏紀

1.13.3 SC 16/WG 5 小委員会 (アプリケーション及びプレゼンテーション層)

◎田中 英彦 ○川村 敏郎 ○佐藤 健 相田 潔  
 猪阪 伸二 小花 貞夫 神山 裕一 河井 英夫  
 河本 清人 高橋 祥兼 田中 良和 塚本 享治  
 坪根 宣宏 長谷川浩明 平澤 裕

1.13.4 SC 16/WG 6 小委員会 (セッション及びトランスポート層)

◎高橋 浩 ○小林 善和 ○武田 浩一 小貫 龍也  
 柴田 伸一 鈴木 健二 関根 博行 高橋 修  
 高橋 邦武 田部 幹雄 西山 徹 水野 忠則

1.14 SC 18 専門委員会 (テキスト処理及び交換)

◎高橋 茂 ○松岡 毅 安藤 寿茂 小田 一博  
 小林 一彦 坂井 喜毅 竹中 駿平 徳永 英二  
 西村 卓美 平塚 良治 吉田 浩三 若鳥 陸夫  
 渡辺 治

1.14.1 SC 18/WG 1 小委員会 (ユーザ・リクワイヤメント)

◎小林 一彦 ○竹中 駿平 菊田 道夫 藤井 茂

1.14.2 SC 18/WG 2 小委員会 (シンボルと用語)

◎若鳥 陸夫 ○渡辺 治 菊田 道夫 高橋 茂  
 中村 真和

1.14.3 SC 18/WG 3 小委員会 (テキスト構造)

◎小田 一博 ○安藤 寿茂 佐藤 孝紀 竹中 駿平  
 平塚 良治 堀口 真寿 吉田 浩三 渡辺 治

1.14.4 SC 18/WG 4 小委員会 (テキスト交換用手続)

◎西村 卓美 ○須田 智紀 井手口哲夫 海老名 修  
 河村 興一 小林 洋 清水 豊 中村 真和  
 新田 哲二

1.14.5 SC 18/WG 5 小委員会 (テキスト作成と表現)

◎松岡 毅 ○若鳥 陸夫 上田 繁 河村 興一  
 小林 一彦 徳永 英二 八田 孝夫 藤井 茂

1.15 SC 20 専門委員会 (データ暗号化技術)

◎宮川 洋 ○今井 秀樹 ○岡部 純 小笠原謙蔵  
 押尾 勝平 神竹 孝至 坂井 喜毅 武田 学  
 徳永 威久 中村 勤 畑 雅恭 松田 主税  
 宮口 庄司

2. IEC/TC 83 国内委員会 (情報機器)

◎和田 弘 ○池田 芳之 ○松本 大四 新井 克彦  
 石井 治 浦城 恒雄 島谷 和典 大田健一郎  
 金子 礼三 狩野 政夫 澁谷多喜夫 瀬野 健治  
 高橋 茂 鶴田 清治 棟上 昭男 東山 尚  
 中田 育男 石田 義博 元岡 達 和田 英一

3. JIS 原案作成・改正委員会

3.1 情報処理用語 JIS 原案改正委員会

◎西野 博二 ○菅 忠義 荒川 和生 内田啓一郎  
 浦野 義頼 小川 元孝 小野寺 哲 倉田 元稔  
 児西 清義 坂井 喜毅 佐藤 賢一 佐藤 文孝  
 下田 宏一 菅原 芳則 関野 陽 高橋 修

中村 真和 西尾 克二 仁科 亮三 芳賀 克己  
平井 通宏 兵藤 剛士 山内 成志 米崎 直樹

### 3.1.1 情報処理用語 JIS 原案改正委員会/WG 1

◎児西 清義 荒川 和生 浦野 義頼 小川 元孝  
小野寺 哲 佐藤 文孝 下田 宏一 高橋 修  
仁科 亮三 兵藤 剛士 山内 成志 米崎 直樹

### 3.1.2 情報処理用語 JIS 原案改正委員会/WG 2

◎関野 陽 ○仁科 亮三 内田啓一郎 倉田 元稔  
佐藤 賢一 佐藤 文孝 菅原 芳則 中村 真和  
西尾 克二 芳賀 克己 平井 通宏

### 3.2 ローカルエリアネットワーク JIS 原案作成委員会

◎澁谷多喜夫 ○谷 公夫 ○藤本 寛 石坂 充弘  
市橋 成元 宇野沢庸弘 小野 欽司 河本 清人  
栗山 幸造 斉藤 忠夫 坂井 喜毅 渋谷 隆弘  
菅原 淳夫 杉田 信昭 所 真理雄 中山 信行  
仲瀬 照 藤村 紀明 宮澤 正幸

### 3.2.1 ローカルエリアネットワーク JIS 原案作成委員会/WG 1

◎栗山 幸造 ○奥村 悌二 井出 政司 奥田 邦夫  
川野 繁一 厚井 裕司 永田 悟 庭山 正幸  
布施 昌裕 松尾 一紀

### 3.2.2 ローカルエリアネットワーク JIS 原案作成委員会/WG 2

◎仲瀬 照 ○寺田 松昭 井坂 攻 小田島文夫

上垣内 巧 菊地國太郎 七條 卓己 丹 洋一  
中野 富也 本名 秀夫

### 3.2.3 ローカルエリアネットワーク JIS 原案作成委員会/WG 3

◎藤村 紀明 ○山本 昇 安達 武利 飯島 康雄  
植野 弘宣 小澤 和幸 小池 伸一 古西 邦芳  
後藤 勝己 後藤 浩一 柳田 耕二

### 3.3 決定表 JIS 原案作成委員会

◎菅 忠義 ○東 基衛 大隅 晃 太田 宗洋  
金子 英一 黒田 寿一 坂井 喜毅 遠山 澄  
中村 真和 長野 宏宣 西村 恕彦 松原 友夫  
松山 辰郎 守屋 慎次 山本 喜一 吉村 正

### 3.4 トランスポートサービス定義 JIS 原案作成委員会

◎田中 英彦 ○高橋 浩 石田 義博 川端 哲男  
小林 善和 佐藤 健 坂井 喜毅 菅原 淳夫  
鈴木 健二 杉田 信昭 諏訪 秀策 高橋 修  
谷 公夫 田畑 孝一 田部 幹雄 塚本 享治  
富永 英義 中山 信行 水野 忠則 盛屋 邦彦  
吉田 曉 脇野 淳

### 3.4.1 トランスポートサービス定義 JIS 原案作成委員会/WG

◎高橋 浩 ○田部 幹雄 小林 善和 佐藤 健  
鈴木 健二 柴田 伸一 高橋 修 長谷川 潤  
水野 忠則 脇野 淳